

クロースアップ インタビュー

旭日双光章受章者 桜井幸助氏 (76歳)



主な経歴

昭和50年4月～平成3年2月 高浜市議会議員

昭和59年5月～昭和60年5月 高浜市議会議長

平成3年12月1日 市政功労者表彰

現在は市内にて精肉店を営業。



平成二十三年秋の叙勲の発表があり、市議会議員として高浜市の発展に尽力いただいた桜井幸助さん(碧海町在住)が、旭日双光章を受章されました。受章の喜びや仕事についてお聞きしましたので、紹介します。

— 受章の感想 —

長い間、皆さまに支援していただけたからこそその受章で、まさに我一代の喜びです。議員は自分一人では何もできません。皆さまに助けてもらってこそ、議員の仕事ができるのだと思っています。

— 仕事について —

●きっかけ

当時所属していた三〇会という中選挙区の集まりの中で、若い人が議員にならなければという意見がありました。衛生協会の役員を務めていたこともあり私が出馬することになりましたが、同じ地区にはもう一人候補者がいて、選挙活動も苦勞したことを覚えています。

個人演説の会場すら見つからない中、地域の飲食店が場所を提供してくれるなど、非常に心強い人たちがいてくれたことも強く印象に残っています。

●印象に残っていること

元々地域のボスだったような方

ではなく、自分のような肉屋の親父が議員になったことで、議員の存在に親近感を持ってもらえたのだと思っています。

私の最初の仕事は、市立病院の設立でした。病院ができるまでの道のりは容易ではなく、反対する人ももちろんいて、当時尊敬する先輩に他市の公共事業の失敗を鑑みるようにと叱られたことすらあります。

しかし、病院が身近になれば検診も早く受けることができます。高浜に住む人が健康に長生きできるように、という想いで仕事に精力を注ぎました。

— これからの生活 —

精肉店の仕事を生涯現役でしていきたいということと、それ以上に趣味である釣りを何よりも楽しみたいと考えています。市内の釣りクラブに所属し、今では生活の一部になっています。趣味を大いに満喫し、余生を楽しんでいきたいと思っています。